

大学支援フォーラム PEAKS 令和3年度 全体会合 議事概要

日 時： 令和3年11月4日（木） 13:00～15:10

開催方式： オンライン

<大学ファンドによる大学支援について>

- ・10兆円ファンドは、日本で今からエンダウメントを作っても世界に追いつけないので、まずは国が資金を出して、40～50年後には海外大学と伍せるようにしていこうというもの。一律に配分するような運営費交付金のような運用は絶対に行うべきでない。改革の意思と結果を見せた大学に投下していくべき。
- ・10兆円ファンドの支援対象とする大学は、トップレベルの研究大学だけでなく、多様性を持たせることができるか。ガバナンスの議論だけ盛んだが、教育や研究のシステムを抜本的に変えることも必要ではないか。ガバナンス、教育、研究を抜本的に変えるようなアイデアを様々な大学からくみ上げつつ、トップレベルの大学だけではなく、多様性を持った大学も大学ファンドに応募できるようになってほしい。

<大学改革・制度改革について>

- ・大学に経営意識を持ってほしい。大学が持っている知的アセットを社会のためにフル活用する認識で経営を考えることが重要。
- ・大学自身がアントレプレナーシップ精神を持って、大学から生まれたものを社会に返していくための緊張感を持つことが必要。
- ・ノーベル物理学賞を受賞した真鍋先生のインタビューで、日本では同調圧力に耐えられないとあった。先生にこういうことを言わせている環境がないか、大学関係者には今一度考えてほしい。
- ・現在の大学、特に国立大学の枠組みは、大学の機能拡張を必ずしも容認していない。世界に伍する研究大学群創出のため、そして我が国の大学全体を振興するために、点ではなく面での制度改革を進めてほしい。
- ・地方や中小規模の大学は、スタートアップへの出資が困難なのが現状。インキュベーターを自前で作って新株予約権で回収できないかと考えたりするが、構造的に難しい問題がある。
- ・大学院に分野融合型のコースを作りたいと考えるが、設置審などの足枷があって進まないの、改善してほしい。
- ・会計制度に則って統合報告書を出しているものの経営協議会などでわかりにくいと言われており、会計制度の改善を図ってほしい。

<博士人材支援、若手研究者支援について>

- ・日本はサイエンスを追求する予算が不足し、かつ博士減少の課題が拍車をかけており、ここから掘り起こさないといけない。科学者を育て、科学者になる人を増やすところにお金が出るべき。
- ・大学ファンドの運用益の使途として、博士支援は大変ありがたいと考えるが、一方で、大学ファンドの運用益が少ないときでも博士人材への支援が途切れることのないようにしてほしい。
- ・社会的な「成功」のイメージが日本と海外とは異なっており、国内の経済支援や大学院プログラムで良いものが出てきたときに、若い人たちを呼び込むためにどう訴えるかが重要。
- ・博士号を目指す人たちが金の卵、あるいは国を背負って立つリーダーなのだという成功例の見える化をしていくことが課題。国家公務員についても博士号取得者は、自己努力の結果に留まり、正当な評価がされていないのではないか。博士号取得者が実社会でも成功している例を政府内で戦略的に作っていくことが大事。

<研究インテグリティについて>

- ・イノベーションの実現のためには様々な知見を持った人が集う多様性が重要であり、安全保障と研究の多様性の両方をどう担保するのが課題。
- ・研究を抑制しないようにする一方で、技術流出を抑制するために、体制整備について大学への支援が必要。

<産業界の在り方について>

- ・大学が持つシーズと企業のニーズが会う場を作るべきだが、作っても企業側の意欲がアジアや欧米に比して劣後しているのではないかと危惧。企業側にアニマルスピリットが必要。

<PEAKS や大学支援の在り方について>

- ・財務運営、経営を支えていける大学の人材育成が急務。PEAKS の存在意義は、政界、財界、官界、アカデミアで、こうした人材育成の在り方を議論すること。
- ・アカデミアと政治の関係についても重要であり、まさに PEAKS は両者の対話の場であると考える。

以上